

咨

注(1) 発落 決着をつける、の意であるが、ここでは打発に同じ。

行かせる。

1-40-18

琉球国中山王より暹羅国あて、阿普尼是等を遣わして公正な
交易を請う咨(二四三四、九、二六)

琉球国中山王、見^{げん}に礼儀の事の為にす。

今、正使阿普尼是等を遣わし、礼物を持齎し貴国に詣献せしめて以て遠意を表す。万望むらくは容納せよ。仍お希^{ねが}わくは今去^ゆく人船の装載する磁器は、四海一家を念^{おも}いて貿易を寛容し、両平に胡椒・蘇木等の貨を収買せしめんことを。回国して中国に貢するに備えん。即^{ただち}に発落せしむるを請う。風迅に乗趁し回還すれば便益ならん。今、礼物を將て開坐し奉献す。咨して施行を請う。須らく咨に至るべき者なり。

今開^{ひら}す

官段五匹 素段二十四

摺紙扇三十把 大青盤二十個

小青盤四百個 小青碗二千個

右、暹羅国に咨す

宣徳九年(二四三四)九月二十六日

礼儀の事

1-40-19

琉球国中山王より暹羅国あて、阿普尼是等を遣わして速やかな
交易を請う咨(一四三五、九、一一)

琉球国中山王、礼儀の事の為にす。

切に卑国は東海に遠居するも、昔より今に及ぶまで貴国と深交し蓋し多年有るに縁^{ゆかり}、然して堅心を以て常に四海一家を念^{おも}い、永く往來を通ずるを結ばんと欲す。此の為に今、正使阿普尼是等を遣わし、礼物を齎送し詣前して奉献せしめ、聊^{いささか}か微誠を表す。切に領納を希^{ねが}う。煩^{わづら}わくは、今去^ゆく人船の装載する磁器等の物は、胡椒・蘇木等の貨を収買するを寛容せんことを。回国して中国に貢するに備えん。更に煩^{わづら}わくは疾^{すま}やかに発遣して回還せしめんことを。風迅を失悞する無く便益なるに庶^{ちか}からん。今、礼物を將て開坐し移咨す。須らく咨に至るべき者なり。

今開^{ひら}す

花段五匹 素段二十四 腰刀五把

彩色扇三十把 大青盤二十個

小青盤四百個 小青碗二千個

硫黄二千五百斤

右、暹羅国に咨す

宣徳十年（一四三五）九月十二日

礼儀の事

咨

1-40-20

琉球国中山王より暹羅国あて、欲沙每等を遣わして公正な交

易を請う咨（一四三六、一〇、一）

琉球国中山王、見げんに礼儀の事の為にす。

微邦は東海に遠居するも、昔より今に及ぶまで貴国と深交するに縁より、通年遣使して微誠を礼献するに、常に珍賂を回惠し、及び四海一家を念おもいて永く往来を通ずるを蒙る。切に照らすに、理として合に特に正使欲沙每等を遣わし、専ら礼物を齎し、前詣して奉謝せしめて以て遠意を表すべし。幸希こいねがわくは海納せよ。更に望むらくは、今差つかわす人船の装載する磁器は、両平に胡椒・蘇木等の貨を収買するを寛恤せんことを。回国して大明国に貢するに備えん。煩わづわくは早すみやかに発遣し買売せしめんことを。風かぜに趁りて回還すれば便益ならん。今、奉献の礼物を將て開坐し移咨す。

施行を請う。須らく咨に至るべき者なり。

今開しりす

花段五匹 素青段二十四

腰刀五把 彩色扇三十把

大青盤二十個 小青盤四百個

小青碗二千個 硫黄二千五百斤大 三千斤小

右、暹羅国に咨す

正統元年（一四三六）十月初一日

礼儀の事

咨

只だ船一隻のみを差つかわす 通事鄭智・梁①

徳仲の二人去ゆく

注（一）梁徳仲 久米村吳江梁氏（亀嶋家）に通事として名があり、

この派遣について記す（『家譜（二）』七五三頁）。

1-40-21

琉球国中山王より（暹羅国あて力）、歩馬結制等を遣わして

速やかな交易を請う咨（一四三七、八、一六）

琉球国中山王、見げんに礼儀の事の為にす。

切に照らして惟うに、貴国と交わりて積つ多年なり。感激の情